

きのこ

【キノコバエ対策】

キノコバエは培養物や子実体の匂いに誘引され、施設の吸排気口や隙間、施設に出入りする人や物と一緒に施設内に侵入します。キノコバエ科のハエは、春（3～5月の期間）と秋に確認され、降雨のあった日と翌日に捕獲数が極端に多くなる傾向にあり、本年は1月頃まで発生が続いていました。

一方、クロバネキノコバエ科のハエは、春から秋にかけて発生のピークもなく継続的に確認され、近年、被害が散見される傾向にあります。

1 クロバネキノコバエ科のハエとは

- ・成虫は体長2～5mmで、全体が黒色で羽も黒く半透明。
- ・屋外では春と秋に大量発生する傾向だが、幼虫は培養物、堆肥、廃培地や植物残渣など様々な場所に1年中生息している。
- ・成虫は光と臭い（培養物や堆肥等）に誘引され、成虫期間は短く、羽化後すぐに繁殖を開始する。成虫は培養ビン内に侵入して産卵し、幼虫は培養物を食害してビン内で成長する。
(幼虫の体長は5mm程度、産卵～羽化までの期間は20～40日)
- ・害菌や線虫、ダニなどを伝搬する。



2 防除対策

クロバネキノコバエ科のハエは虫体がキノコバエ科に比べ微小であり、春から秋にかけて屋外で常に発生しています。発生(被害)を確認した場合は、まず、粘着シートや捕虫器等で繁殖源（培養室、生育室、施設外等）を特定して、以下の事項を再確認、徹底することが重要です。

1) 培養室における対策

- 吸排気口への侵入防止ネットの設置、隙間を埋める
 - ※ ネットの穴や剥がれていないかの定期的確認（特に、強風後に剥がれる場合がある）
- 割れビン、破損キャップの処分、キャップのウレタンフィルターの定期的な交換（ブナシメジ）
 - ※ キャップのウレタンフィルターの硬化により隙間が発生して、侵入しやすくなる
- 害菌汚染ビンの抜き取りの徹底、殺菌や処分は迅速に行う
- 害菌汚染ビンを生育室や菌かき場所周辺に放置しない
 - ※ 放置しておくとな成虫の発生源となり、生育室へ侵入する可能性がある
- 捕虫器による捕殺 ※ ただし、爆発的な繁殖の場合は対応が難しい
- 接種量の確認 ※ 菌床面とキャップの間に隙間があると産卵されやすい
- 施設周辺の整備
 - ※ 施設周辺に廃菌床、割れビン等を放置しない、草刈り、外に不要物を置かない

2) 生育室における対策

- 菌掻き時の汚染ビン、生育不良ビンの抜き取りの徹底
- 抜き取ったビンは即日、殺菌釜の余熱などを利用して殺菌する
- 粘着シートや捕虫器による捕殺
- 生育棚、床などの定期的清掃（蛹化場所となる苔などは必ず除去する）